

りす俱樂部

2020 年
2月号
第278号

サクラソウ

江戸時代、武士の間で流行し、新しい品種を作出して競い合った花があると聞き、調べてみると「サクラソウ」でした。りす倶楽部の表紙絵に良さそうと、早速一鉢買いました。花言葉「初恋」にふさわしく可憐な小花が手を取り合っている様子は、りすシステムの絆のようでした。

弁護士 福井大海



5月末までの全イベントを中止いたします

皆さま、マスコミ報道等でご存じと思いますが、新型コロナウイルス感染症の拡大により日本全国の、人が集まる多くの行事などが中止や延期となっております。

このような状況に鑑み、りすシステムの全ての行事（生前契約説明会、私のおぼえがき講座、セコム説明会、暮らしのよろず相談会、法律相談、なんでも談話室、談話サロン、うたごえサロン、お花見、例会、りすセンター・新木場見学会、施設見学会）を中止させていただくことに致しましたので、ご理解ご協力賜りますようお願い申し上げます。

なお、りすシステムの全ての事務所の業務は平常通り行っております。

（6月以降の再開時期につきましては、りす倶楽部、ホームページ等でご案内させていただきます予定です）

シニアアドバイザーについて

NPOりすシステム 監事
現代礼法研究所代表

岩下 宣子



アップル社を創業したスティーブ・ジョブズ氏の直前の文章は、そのことを教えてくれているように思います。

『スティーブ・ジョブズの最後の言葉』

私は、ビジネスの世界で成功の頂点に君臨した。他の人の目には、私の人生は成功の典型的な縮図に見えるだろう。

しかし、仕事を除くと喜びの少ない人生だった。人生の終わりには富など、私が積み上げてきた人生の単なる事実でしかない。

病気でベッドに寝ていると人生が走馬灯のように思い出される。

私がずっとプライドを持っていたことや、人に認められることや、富などは迫る死の前にして色あせていき、何も意味をなさなくなっている。

今、私はこの暗闇の中で、生命維持装置のグリーンのライトが点滅するのを見つめている機械的な音が耳に聞こえてくる。神の息を感じる、死がだんだん近づいている、今やっと理解したことがある。

人生において十分にやっていけるだけの富

マナーを学び始めて葬儀のマナーに興味をもっていた頃、新聞の「生前契約アドバイザー養成講座」が目にとまりました。早速申し込んで勉強をしたのが松島先生とのご縁でした。

生前契約アドバイザーの研修で、棺桶の中に入ることが出来たのも貴重な体験になりました。私も亡くなったらこんな風にお棺の中から見ることになるのかと不思議な気持ちでした。今から20年ほど前でしょうか。

生前契約アドバイザーにはなれなかったのですが、松島先生には、それ以来のご縁を頂いています。

松島先生は、いつもにこやかで、度量の大きさを感じて、すごい方だなと思っています。先生のお考えはいつもプラス発想で、

素晴らしいアイデアが次々と実践されているので、お会いすると、いつも生きる元気と勇気を頂いています。

先生がNPOを作った頃、たくさんのNPOが生まれていたと思うのですが、世間の人たちから認められる信頼厚い『りすシステム』に成長されたのは、松島先生が、ご自分よりご縁のある方や地球を大切にする無欲の勝利と思っています。利用者の方が、どれだけりすシステムさんに感謝しているか、毎月お送りくださる会報誌を拝読するとよくわかります。

人生の最高の喜びは人の喜びを見ることがだと言った人がいますが、誰かの役にという先生の生き方が、まさにそうです。『利他』と『利己』どちらに重心を置くかで人間の偉大さが決まるように思います。

を得た後は、富とは関係ないことを追い求めた方がよい、もっと何か大切な他のことを……それは人間関係や芸術や若いころからの夢かも知れない。

終わりを知らない富の追及は、人を歪ませてしまう、私のようにね。

神は誰も心の心に、富によってもたらされた幻想でなく、愛を感じさせるための「感覚」というものを与えてくださった。

私が勝ち得た富は、私が死ぬときには一緒に持つていけるものではない。

私が持つていけるものは、愛情にあふれた思い出だけだ。これこそが本当の豊かさであり、あなたとずっと一緒にいてくれるもの、あなたに力を与えてくれるもの、あなたの道を照らしてくれるものだ。

愛とは何千マイルも越えて旅する。人生に限りはない、行きたいところに行きなさい。望むところまで高峰を登りなさい。全てはあなたの心の中にある、全てはあなたの手の中にあるのだから。



世の中で一番犠牲を払うことになる「ベッド」は何か知っているかい？それは「シックベッド（病床）」だよ。

あなたがもし何処かに行きたければ、誰かドライバーを雇うことが出来る。お金を作ってもらうこともできる。だけれども、あなたの代わりに病気になるってくれる人を見つけることは出来ない。

物質的なものはなくなってもまた見つけれれる。しかし、一つだけ無くなってしまつては、二度と見つけれられないものがある。それは、人生だよ。命だよ。

手術室に入る時、その病人は、まだ読み終えていない本があつたことに気付くんだ。

その本の名は『健康な生活を送る本』

あなたの人生が、どのようなステージにあったとしても誰もがいつか、人生に幕を閉じる日がやってくる。

あなたの家族のために愛情を大切にしてください。

あなたのパートナーのために あなたの友人のために そして『自分を大切に扱ってあげてください』

ステイブ・ジョブズ（白石 守 訳）

松島先生や杉山代表は、契約家族の利用者の方たちのために色々なイベントを考えて、よい思い出をつくられて、安心して今を生きていける愛あるシステムを作られたのだと思います。ステイブ・ジョブズがりますシステムさんのことを知ったら、どのようなコメントをしたか聞きたかったです。



昨年末、松島先生から、シニアアドバイザを作ろうと思つていとお話を伺いました。

りすさんの病院などの付添いをお手伝いいただける、補佐をしてくれる人たちの組織を作ろうと思つていとお話でした。周りに声をかけましたら、仲間が喜んで登録してくれました。

お仕事の中味は、利用者の方の病院の付き添いにりすさんの職員の方が行くのですが、一人の時、その場を離れられず化粧室もいけないことがあるそうです。それで賛

同くくださったボランティアの方に一緒に行ってもらうというものでした。

しかしボランティアとはいえ、利用者の方から見たら、りすさんの職員と変わりません。そこで賛同してくれた仲間たちに、次のようなお願いをしました。

1. 身だしなみを整えること

私たちは、外見で人を判断するところがあります。人間の心は複雑のようですが、ベースになっているのは好きか嫌いかです。お会いした時、嫌な奴と思われるから良い人間関係は作れません。外見で人を判断してはいけないよ！というのは、人は外見で判断するものだから、それをしてはいけないよ！という言葉があるのです。

髪型、姿勢、洋服、靴など、清潔で爽やかな印象を与えられるように外見を整えることも大切です。また、病院には、黒ずくめの服装で行ってはいけません。

私の友人が、父親が入院していて見舞いに行った時、エレベーターから黒い服装の人が降りてきたとき、不吉なものを感じて、

病院には、喪服を思わせるような黒ずくめの服装はよくないと思ったそうです。

2. 利用者さん大好き人間になること

同じボランティアをするのでも、利用者さんやりすの職員さんと良い関係が作れた方が三者がハッピーになります。

人の心は鏡だそうです。あの人良い人ね！と思つてるとき、相手も良い人と思つてくれるそうです。あの人嫌な人と思つた時、相手もこちらを嫌な奴と思うそうです。そういう意味では、人の好き嫌いのある人は、このボランティアには向かないと思います。

人間大好きな人は、人に会った時『愛拶』が出来るのです。あなたにお会いして嬉しいという挨拶。笑顔の挨拶です。

ご存知ですか？笑顔の挨拶は脳を活性化するのでそうです。笑顔の挨拶は、本当は自分のために大切なのです。また、英語のスマイルには、「運が開ける」という意味もあるそうです。



3 思いやりの心と観察力を養うこと

相手を大切に思う「思いやりの心」も脳を活性化するそうです。でも観察力がないと、『親切という名のお節介、そつとしておく思い遣り』という言葉があるように折角の親切がお節介になってしまいます。思いやりと観察力があれば周りに気遣いができます。気遣いが出来ると気配りができます。ちよつとこれはまずいな、と思つたときに気を走らせることもできます。

ボランティアをしてくれる仲間は、まずすぐく思いやりのある人たちです。情けが深い人たちなので、どんどん利用者さんの中に踏み込んでいこうとする人もいます。は、とちよつと心配します。

あくまでも契約の上のお仕事なので、りすの職員さんの指示に従い、自分の立ち位置をいつも確認して行動することも大事だと思います。それが、利用者さんもりすの職員さんも、大切にすることになるのだと思います。



三国旧市街地の風景 曆に

自らの絵が掲載されたカレンダーを持つ福井さん＝坂井市三国町北本町4丁目



水彩画 東京のNPO採用

福井赴任 弁護士手掛ける

坂井市の三国町旧市街地を描いた水彩画が東京のNPO法人のカレンダーに採用された。全国の6千人の会員に配布される予定で、三国の知名度向上の期待がかかる。

「りすシステム」が採用した。福井さんは、高校時代に水彩画を始め、検事時代も創作活動を続けてきた。福井さんは2004年に公証人として福井県に赴任。旧市街地の風景に魅了され、09年までの在任中、足しげく三国に通って筆を走らせた。

同NPOが毎月発行している機関誌の挿絵を担当していることから、昨年のカレンダーに福井さんの絵が初めて採用された。昨年は、旧市街地の絵は2枚にとどまったが、今年は6枚すべてが旧市街地の作品になった。

絵は、三国湊の夜景や旧岸名家、和菓子店などを描いたもの。福井さんは昨年末に三国を訪れ、店舗などにカレンダーを配布、「全国の人が三

福井大海先生が
福井新聞の取材を受け
2020 カレンダーが
紙面で紹介されました！

カレンダーをご希望の方は、お電話でお申込み下さい。0120-889-443



国に興味を持ってくれたらうれい」と話した。旧市街地の活性化に取り組む一般社団法人「三国會所」の大和久米登理事長は「福井さんがいた頃を思い出した。素晴らしい絵ばかりで三国のPRになると思う」と喜んで

(黒田美紗)



昨年の日本水彩展、地方巡回展の鑑賞会の様子です

支部



活動記

北海道・北日本支部

▼自宅で一人暮らしをしていたRさん（93歳・女性）は、体力・気

力の衰えを感じ、食事の準備もおっくうになってきたことから、施設入居を検討。旧友が入居しているサービス付き高齢者向け住宅を見学し、「お友だちがいておしゃべりもでき、楽しく暮らせそう」と入居を決め、そこでの暮らしをスタートしました。

しかし、お友だちはデイサービスに出かけるため、会えるのは食事時くらい。職員による見守りもありますが、期待していたほどの声掛けはないと感じたそうです。サービス付き高齢者向け住宅は賃貸住宅ですから、入居者は各々の生活を営み、交流が活発というわけでもなく、当然ながら建物内の人通りも静かです。

Rさんから、「何もすることが

なく、このままだと、もっと歩けなくなってしまう」との相談を受け、有料老人ホームへの転居を検討することになりました。

条件に合う施設をいくつか見学した結果、日当たりが良く、近所に商業施設のある介護付き有料老人ホームへの転居を決めました。定期受診しているクリニックから多少遠くなりますが、往診してくれることになり、Rさんも安心しています。

▼心臓のバイパス手術を受けたOさん（64歳・男性）から、「退院後すぐに自宅へ戻り、食事の支度など、これまで通りの一人暮らしを続けていけるか不安です。体力が戻るまで当分の間、見守り、食事の提供をしてくれるところへ入れませんか」との相談がありました。

退院日もほぼ決まっていたので、いくつかのサービス付き高齢

者向け住宅に問い合わせたところ、Oさんの自宅近くの施設に空きが見つかりました。退院日を2日延ばしてもらって事務手続きを進め、りすシステムが身元引受保証人となって契約、入所しました。「職員の声掛けがとても心強かった」とおっしゃっていたOさん。こちらのサービス付き高齢者向け住宅で10日ほど過ごし、体力が戻ってきたところで自宅に戻りました。



東日本支部

▼りすシステムと契約後、自宅マンションで平穩に暮らしていたJさん（70代・女性）。

先日Jさんの友人から、最近認知症と思われる言動が増えて心配している、一度Jさん宅を訪問して欲しいとの電話がありました。

本人の依頼がなければ動けない決まりですが、契約後一度も見守り訪問を希望されていない方なので、Jさんにお電話したところ、「見守り訪問に来て下さい」とのお返事をいただき、日時を調整しました。

しかしその後Jさんは、りすシステムの訪問日を忘れたり、突然事務所に来られるなどのことがあり、内部で協議の結果、地域包括支援センターの担当者とJさん宅を訪問しました。

お会いしたJさんは穏やかな方でしたが、お話ししていくうちに認知機能の衰えが顕著なことが分かりました。本人からも施設を探して欲しいと依頼があり、地域包括のスタッフとも話し合い、施設入居を進めることになりました。Jさんと候補の施設を見学し、条件に合ったところに入居しました。

入居後、「家に帰りたい。どうしてここにいるのか、分からない…」などの電話が事務所に頻繁に

入るようになり、施設に何も言わず外出することなどもあったので、任意後見監督人選任の申立をする事になり、医師に診察を依頼し、手続きを進めています。

▼入院中のEさん（74歳・女性）
から電話があったのは、昨年の12月上旬のことでした。

「がんが進行しており、点滴で命をつないでいます。寿命が近いと思いますが、りすシステムと契約出来ますか」とおっしゃるEさんに、出張説明をしてご意思が固まれば契約は可能だとお伝えし、5日後に病室を訪問しました。

病室でお会いしたEさんは、ほぼ寝たきりでしたが会話には問題なく、穏やかにご自身のことをお話し下さいました。

身体のおちこちにがんが転移しており、りすとの契約後、緩和ケア病棟のある病院に転院を希望され、既にご自身でお話を進めているとのこと。弟さんがいますが、迷惑をかけたくないので、りすに連絡を下さったとのことでした。

Eさんに説明をお聞きいただき、急ぎ契約を進める事になり、年明け早々、公正証書を作成しました。

契約後、Eさんが希望していた緩和ケア病棟への転院が決まり、退院・転院サポートを行いました。

1月下旬、病棟の看護師から、「Eさんの依頼で、強めの鎮静剤を使用することになりました。りすシステムさんにお伝え下さい」と言付けられました」と電話があり、翌日の訪問を予定していましたが、スタッフ到着の少し前に息を引き取りました。

亡くなったことを弟さんに伝えるところ、「りすさんのことは姉から聞いています。今後のことは、本人の意思通りに進めて下さい」とのことでした。火葬には弟さん夫妻が立会い、Eさんをお送りしました。

Eさんのお付き合いはごく短いものでしたが、人生の手じまいの見事さに、心を打たれました。

Eさん、どうぞ安らかに眠り下さい。



中部日本支部

▼正月4日、Iさん（90歳・女性）の住んでいる施設から、「Iさんが昼食後、体調不良を訴えていました。救急搬送したほうがいいでしょうか」との電話がありました。

左の手足に力が入らないのとことで、脳梗塞の疑いもあったことから救急搬送を依頼し、りすシステム医療班の看護師が搬送先に急行しました。

頭部検査の結果、右脳中央部に梗塞があるとの診断で即入院。主治医から、「脳の中央部は神経が多く集まっている箇所、落ちていていても急変・再発しやすいため、3、4日が峠」との説明がありました。

麻痺が残った場合はリハビリ病院の手配、介護申請、現在入居している施設で引き続き暮らせるかどうかの検討など、やらなければならぬことが多くありますが、早期治療が功を奏したのか、その後病状が安定し、手足も普通に動き、受け答えにも問題ない状態でした。

5日後、主治医の病状説明に立ち会いました。梗塞の箇所をMRI画像で示され、「麻痺もないので、今日でも退院出来ます」とのこと。今後は再発予防のための服薬を続け、散歩など適度な運動を心掛けるようにとわれ、その日のうちに退院しました。

Iさんから、「今まで通りの生活に戻れてうれしい。感謝、感謝」と、いつもの「感謝」という言葉が聞かれホッとしています。

退院後、要介護認定の申請を済ませ、結果を待っています。



西日本支部

▼Sさん（92歳・女性）が暮らす施設から、Sさんが救急搬送されたご連絡がありました。

心室頻拍という、心室を発生源とする不整脈の一種で、場合によっては突然死の可能性もあり得ること。譫妄もあるとのことなので、**医療上の判断に関する前意思表示書**を病院に提出しました。

医師から、「心室頻拍の原因が心臓の障害かどうか、検査が必要ですが、カテテル検査は身体への負担が大きいのので、積極的な治療を望まないのなら薬物療法で、症状が落ち着けば退院も可能です」との説明を受け、10日ほどの入院後退院して、施設に戻りました。

しかし、食事が摂れない状態が続いたため急性期医療センターに再入院し、その後、療養型病棟のある病院に転院しました。ソーシャルワーカーからは、「わずか

ではありませんが、食事も口にしています。しかし認知症の症状が進行しているようで、意思の疎通が困難な時があります」と言われました。

施設入居費用や入院費の支払い、Sさんが気にかけている特別養護老人ホーム入居中の妹さんのことなど、対応が必要なことや懸念されることも多く、主治医に任意後見監督人選任に必要な診断書の作成を依頼しました。

今後、家庭裁判所に申立をして、監督人が選任されれば、りすシステムが任意後見人となり、引き続きSさんの支援を続けることになります。

中国支部

▼昨年末、サービス付き高齢者向け住宅の担当者から、「スタッフと入居者向けに、**保証パック**の説明をしてもらいたい」との電話があり、施設で説明会を行いました。参加されたNさん夫妻（ご主人94歳・奥さん90歳）が、すぐにで

も保証人が必要とのこと、個別にお話を伺ったところ、「今は妹が保証人ですが、高齢のため、施設からもう一人保証人をつけてほしいと言われています。りすシステムにお願い出来ませんか」とのことでした。

年末の慌ただしい中、公正証書作成まで進め、りすが施設の身元引受保証人になれるよう進めようとしたところ、Nさん夫妻から次のような申し出がありました。

「子どものころ大阪に住んでいたので、最期は大阪で迎えたい。情報誌で調べた施設に問い合わせたところ空きがあるので、そこへ移りたいと思います。その施設にりすシステムのことを話したら、りすが保証人なら入居可能とのことでした。現在の施設から引越したいと考えていますが、手伝っていただけますか」

Nさん夫妻の希望を、入居中の施設の担当者に伝えたところ、「Nさん夫妻は、お金があればすぐにでも施設に入れると思います、転

居先を決める前に自宅を手放していました。ところが保証人がネットワークとなって入れるところがなかなか見つからず、困っていたところを当施設で受け入れました。りすシステムさんに出会って、全国の施設を検討出来ると知り、表情が明るくなりました。ご夫妻の希望を優先して下さい」とのことでした。

転居を決めた夫妻はお世話になった施設に退去届を提出、その後の引越しの手伝い、その他の処理等のサポートを行いました。

大阪の施設への移動日は、中国支部と西日本支部で連携しサポート。広島から大阪の施設までは中国支部のアドバイザーが付き添い、施設で西日本支部のアドバイザーと合流。今後のサポートは西日本支部が引き継ぐことを伝えたと、Nさん夫妻は安心されました。



四国支部

▼1年ほど前に認知症の奥さんを亡くし、有料老人ホームに入居したYさん（81歳・男性）が、先日亡くなりました。

肺の持病をかかえ、**医療上の判断に関する事前意思表示書**には、積極的な治療は望まないと記していました。

「最期は、施設のこの部屋で迎えたい」とおっしゃり、施設長にも同意してもらいましたが、持病があったことから激しい呼吸困難に陥り、救急搬送となりました。四国在住のアドバイザーが搬送先に急行、急性肺炎の診断で入院しました。

最期は施設の部屋で…とおっしゃっていたYさんでしたが、戻れることは叶わず、入院から半月後に息を引き取りました。何とか施設からお送りしたいと、アドバイザーがご遺体の搬送に施設まで付き添い、施設の皆さんとお別れました。



Yさんは奥さんと同じような葬儀を希望されており、故郷の海で見えるところで葬儀を行って欲しいと**企画書**に記していました。寺へのお布施や参列者への対応などについても細かく指示があったので、意思に従い死後事務を進めました。

四国支部に常駐のスタッフがいないことから、「緊急時のサポートはどのようにしますか」とのお問合せをいただくことがあります。契約業務などは中国・四国支部を兼任している責任者が行い、緊急時の対応は四国在住のアドバイザーと中国支部で連携して対応しますので、ご安心下さい。

九州支部

▼りすシステムと契約して13年になるHさん（95歳・男性）と奥さん（87歳）。一戸建てに愛犬と暮らし、毎年見守り訪問をしていました。

愛犬が旅立ち、昨年奥さんが入院して一人暮らしとなったHさんでしたが、介護サービスを受けることもなく、元気で暮らしておられました。

奥さんの入院中はHさんと一緒に奥さんの病室を訪ね、主治医の病状説明にも立ち会いました。奥さんの容体が悪化し、もうダメかも…ということも何度かありましたが、その都度持ち直し、退院を目標にリハビリに励んでおられました。

また奥さんの入院中、Hさんを心配した親戚の方が、Hさんが入居可能な施設を探し、そこへ転居することになったので、りすが身元引受保証人となり入居契約をしました。

その後奥さんの退院が決まり、奥さんの妹さんに協力いただきながら施設を探すことになり、候補の施設を見学。奥さんの現状や施設の雰囲気を見学して決めた施設を、りすが身元引受保証人となり契約しました。

別々の施設で暮らすことになったご夫妻ですが、お元気なHさんが奥さんの住む施設を訪れ、お二人で過ごす時間を作っています。また月に一度、りすとケアマネージャーで奥さんを訪問し、見守っています。

▼15年前にりすシステムと契約したMさん（79歳・女性）。ご主人（85歳）とともに有料老人ホームの入居契約をし、セカンドハウスとして月に数日だけ利用する暮らしを続けていました。

ご主人は、「私はがんだから家内より先にこの世を去る」とおっしゃって、りすとの契約はしていませんでした。しかし本人曰く、「想定外に、長生きしているんだよ…」。そんなご主人に、時折り

契約をすすめてはいましたが、年月の経過とともに契約は不可能な状態となりました。

そこで、Mさんの書類を見直して公正証書を書き換え、ご主人はシンプル葬を契約。自宅は退去して、契約していた施設の自室をMさんが使用し、ご主人は介護室を利用することになりました。

施設内で別々に暮らしながら、Mさんが毎日ご主人の部屋を訪れる日々でしたが、半年後、ご主人が旅立ちました。契約していたシンプル葬でお送りし、施設の友人も火葬に立ち会いました。

収骨後はMさんの自室で供養し、先日Mさんに付き添って、すかも平和霊苑で四十九日法要を執り行いました。ご主人は仏壇・位牌不要、ニュージールランド撒骨を希望しています。

Mさんは現在、ご主人の好みの色のハーバリウム（ガラスの小瓶に花をオイル漬けたもの）とともに、撒骨ツアー参加を心待ちにしています。

大分支部



▼昨年末、地元の警察から、Tさん（72歳・男性）が自宅で亡くなっているとの連絡がありました。

離婚した奥さんに身元確認をしてもらったとのことで、りすシステムに遺体取りの依頼があり、手配をして引き取り、葬儀社に安置。年明け2日に火葬し、納骨場で預かってもらうことにしました。

Tさんがりすシステムと契約したのは5年前のことでした。離婚した奥さんから弁護士を通して、「離婚後のTさんのことが心配。りすシステムと契約出来ないか」との問合せがあり、Tさんに説明し、契約に至りました。

その後、何事もなかったTさんですが、昨年9月発行の『ARC O通信秋号』が「転居先不明」で返送されたので、自宅に電話すると、「お客様の都合で通話出来ない」とのメッセージが流れました。

企画書に記載されていた長女、紹介して下さった弁護士を通して元奥さんに連絡しましたが、何も知らないとのことでした。

翌日Tさん宅を訪問。地図を片手に見つけた家は草木で覆われていましたが、ガレージには車、その脇には高枝切りバサミが置いてありました。

草をかき分け玄関までたどり着き、チャイムを何度も押して、お名前を呼びましたが、全く応答なし。いよいよ警察に連絡か？と思っていたところ、隣りのお宅の窓から人影が見えたので、何かご存じないか伺ってみました。

すると、「今朝Tさんを見かけましたが、元氣そうでした。パチンコから帰って来て、眠っているでしょう。Tさんは一人暮らし

なので、私たち両隣で気にかけるようにしています」とのことでした。何かあれば連絡しますとおっしゃって下さったので、りすのことを説明し、連絡先を交換しました。

経緯を弁護士に報告したところ、「確認出来てよかったです。元奥さんも娘さんも、現在は全く交流していないそうで、近くに心配してくれる人がいて助かります」と、感謝されました。

Tさんの計報が入ったのは、それから4ヶ月後のことでした。早期に発見出来たのも、近所の方の通報のお陰です。

先日、近所へのご迷惑が少しでもかからないように配慮し、Tさん宅の特殊清掃などを済ませました。四十九日に納骨の予定です。





地球に恩返しTシャツ・ポロシャツ



人気のカラーです！



カラフルでかわいいロゴ付きの〈特製Tシャツ・ポロシャツ〉です。お買い上げ金額の一部を、りすシステムから「地球に恩返し基金」へ寄附いたします。ご協力よろしくお願いいたします。通信販売も承ります。ご希望の方は0120-889-443までご連絡下さい。

Tシャツ

■定価：2,000円（税・送料込み） ■サイズ：S・M・L
■カラー：ホワイト・ピンク・イエロー・ライトグリーン・ライトブルー

ポロシャツ

■定価：2,500円（税・送料込み） ■サイズ：S・M・L・LL・3L
■カラー：ピンク・ネイビーブルー

地球に恩返し運動について

私たちの生命を育んでくれている地球!! このやさしい地球に少しでも恩返しをして、次世代に美しい地球を残しませんか。皆さまのご寄附で「地球に恩返しの森」に植樹ができ、銘板にあなたのお名前が刻まれます。

※匿名希望の方は、振込用紙の「通信欄」に「匿名希望」と、ペンネーム希望の方は「ペンネーム」を明記の上、「ご依頼人欄」には必ずお名前をご記入ください。

NPO りすシステム
地球に恩返しの森づくり事業部

地球に恩返し運動本部

連絡先：TEL.03-5215-2383



地球に恩返し 基金振込先

● 郵便局から振り込む場合

郵便局口座番号：00140-7-743432
加入者：地球に恩返し基金

● 他行からゆうちょ銀行に振込む場合

店名：〇一九（ゼロイチキユウ）
種目：当座 口座番号：0743432
加入者：地球に恩返し基金



「地球に恩返し基金」に寄附をいただき、ありがとうございました

加藤 弥三郎さん（千葉県夷隅郡）

小林 たつ江さん（東京都中野区）

渡邊 潔さん（栃木県日光市）

匿名1名 50音順



※ 2020年1月1日～1月31日の期間、4名の方から寄附をいただきました。

新型コロナウイルスを含む感染症対策の基本は、 「手洗い」や「マスクの着用を含む咳エチケット」です。

①手洗い

正しい手の洗い方

手洗いの
前に

・爪は短く切っておきましょう
・時計や指輪は外しておきましょう



石けんで洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

②咳エチケット

3つの咳エチケット

電車や職場、学校など
人が集まるところでやろう



何もせずに
咳やくしゃみをする

咳やくしゃみを
手でおさえる



マスクを着用する
(口・鼻を覆う)

ティッシュ・ハンカチで
口・鼻を覆う

袖で口・鼻を覆う

正しいマスクの着用



1 鼻と口の両方を
確実に覆う



2 ゴムひもを
耳にかける



3 隙間がないよう
鼻まで覆う

厚生労働省の発表より

十分な睡眠とバランスの良い食事に注意し、免疫力を低下させないようにしましょう。また人混みを避け、不要不急の外出を自粛しましょう。体のだるさや発熱、咳など、風邪の症状や呼吸器の症状が長引く場合には、最寄りの保健所や相談窓口へご相談下さい。

NPO りすシステム

☎ 0120-889-443

りすセンター・新木場

☎ 0120-373-959